

学校だよりについて



子どもたちの学校での様子や、日頃私が校長として考えていることなどを保護者や地域の皆様にお伝えしていきたいと考えています。「いろいろな個性や考え方があっても、一緒に楽しみたい、一緒に成し遂げたい、一緒に乗り越えたい…、『みんなわになれ!』って集まることのよさもあるよね。それを学べるのが学校じゃないかな。」という思いからネーミングしました。名前のような親しみのあるお便りづくりに努めてまいります。「書きたい、伝えたい」と筆を取った際に不定期でお届けしたいと思います。

努力の一つとして

校長には、学校教育への理解と協力を仰ぐ皆様に対して、「学校経営方針の説明責任を果たす役割」があります。コロナと変わる校長がその度に違う方針を打ち出すというのは、皆様にしてみれば(付き合いが大変)と思われるかもしれませんが、学級担任が保護者の皆様に示す「学級経営方針」と同じです。皆様や子ども達からの信頼あつての教育活動ですので、それを得るために行う努力の一つとしてご理解いただき、お付き合い願えると幸いです。



学校は何を学ぶのか

私の学校経営方針をスローガンのようにまとめたものは、以下のとおりです。

「つながり」を学ぶ

そして、学ぶことを「喜び」に の実現を目指す学校

これからの社会は、情報技術の進化やグローバル化等を背景として、経済や文化など社会のあらゆる分野でのつながりがますます緊密になっていきます。「知識があること」「情報をもっていること」自体の価値は相対的に下がっていきます。未来を担う子ども達に求められる力は、「自ら課題を発見し、知識や情報を活用しながら、異なる考えをもつ人たちとも協働して取り組む力」です。

学校では、様々な教科・領域を学びますが、知識を得る、良い点数を取ることは、もはやゴールではありません。今からは、一問一答式のクイズを答えるような学習ではなく、多様な考え(答え)があることを理解したり、その中から納得できる答えを見出したりする学習へ転換していきます。

物事(人・事象)は、すべて目的や意義等によってつながっています。つながりを学ぶことで、物事の本質やそれぞれのもつ役割の大切さについて、考えさせたいと思います。

分数の勉強が何とつながっているのか、また、つながっていくのか、そこを大切に学習を目指していきます。そして、つながりを生かして、「自分はこう考えるけれど、君は?」「考えが変わっていったよ(もしくは、深まっていったよ)」「自分の考えを発信していきたい」「人の考えも聞いてみたい」という思いを育てる学習を目指していきます。

こうした学習を展開していくことが、「学ぶことは喜びなんだ」「『(ともに)生きる』ということは『学ぶ』ということなんだ」と考える“人づくり”につながっていくと信じています。

心のゆとり(寛容さ)を

先の経営方針を掲げるにあたり、もう一つの思いがあります。それは、昨今の風潮への憂いから生じたものです。いつの間にか世の中は「批判社会」になってしまいました。コンプライアンスが大切なのは分かりますが、人間は聖人のように強く、潔白に生きられるものなのでしょうか。たった一度の過ちで人生のやり直しもできなくなるのでしょうか。“ギスギスとした余裕のない生き方を強いられるかために、人にも厳しい目を注いでしまう”そんな風潮に自分も染まってきてはいないかと自省しています。寛容な心、豊かな心を子ども達に育みたい、そんな思いを強くします。

地域とともに



椎葉村のよさの一つに、「家庭が地域の中に根付いている」ことが挙げられます。当たり前と思われるかもしれませんが、昔では「地域と全く関わりがない」という家庭が溢れています。共働きで余裕のない家庭が、地域とも疎遠な中で孤立して生活している状況は、子ども達の教育にも大きな弊害をもたらしています。人々のつながり(絆)、そこから生まれる様々な恩恵に気づき、感謝しながら守っていく(貢献していく)ことを、学校も貴重な媒体となって進めていく所存です。

大人の体験談を添えながら



先日、PTA生活指導部の皆様の協力により、本年度の稲作体験学習がスタートしました。食を担う人々の仕事に触れることの意味はもちろんですが、このことをきっかけに、米作りの体験や働くことの意味について、ご家族(ぜひおじいちゃん、おばあちゃん)から話をして欲しいと思います。一粒の種籾からは、500粒以上の米粒が実ると言われています。椎葉小の子どもたちの一つの体験が、たくさんの実りにつながっていくよう、ご家庭でも、この学校だより「みんなわになれ」の話題に触れていただけたらうれしいです。